需給動向

海外の畜産物の需給動向

牛　肉

米　国

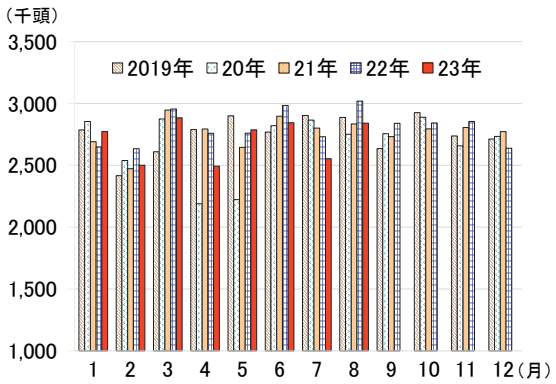
肥育牛価格は引き続き高水準、23年７月の牛肉輸出量は大幅に減少

23年８月の牛肉生産量、前年同月比5.7％減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年８月の牛と畜頭数は、284万700頭（前年同月比5.9％減）とやや減少し、この結果、同月の牛肉生産量も107万2000トン（同5.7％減）とやや減少した（図１）。

と畜頭数の減少について、23年１～８月の累計では2167万4900頭（前年同期比3.6％減）となり、内訳を見ると、去勢牛が1018万7600頭（同4.6％減）、未経産牛は672万600頭（同1.1％減）となり、肉用経産牛は、米国西部、南部の一部で牧草地の状況が改善したことから、227万6500頭（同13.3％減）と前年同期をかなり大きく下回っている。また、肥育牛価格の高騰による利益率の低下を背景に、食肉処理業者のと畜ペースも鈍化傾向にある。23年の牛肉生産量についてUSDAは、と畜頭数の減少から当初の予測を下方修正し、1222万トン（前年比4.8％減）と前年をやや下回ると見込んでいる。

図１　牛と畜頭数の推移



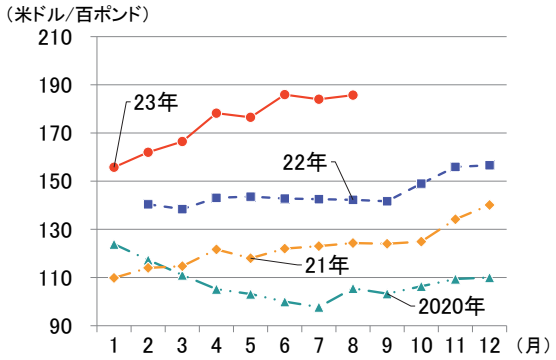
資料：USDA「Livestock Slaughter」
注：連邦検査ベース。

23年８月の肥育牛価格は前年同月比30.6％高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2023年８月の肥育牛価格は100ポンド当たり185.71米ドル（１キログラム当たり617円：１米ドル(注)＝150.58円、前年同月比30.6％高）と引き続き高水準にある（図２）。また、同月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー）は100ポンド当たり308.21米ドル（同1023円、同16.3％高）となり、USDAは、供給のひっ迫や季節的需要の高まりから、今後も同価格は堅調に推移すると見込んでいる（図３）。

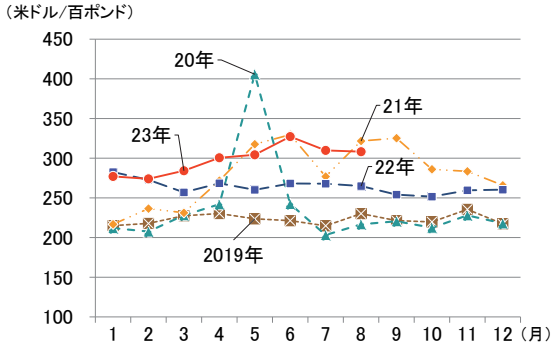
（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年９月末TTS相場。

図２　肥育牛価格の推移



資料：USDA「Livestock ＆ Meat Domestic Data」
注１：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
注２：2022年１月の値は、N/A値。

図３　牛肉卸売価格の推移



資料：USDA「Livestock ＆ Meat Domestic Data」
注１：カットアウトバリュー（各部分肉の卸売価格を１頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格）。
注２：チョイス級、600～900ポンド。

23年７月の牛肉輸出量、前年同月比21.8％減

USDA/ERSによると、2023年７月の牛肉輸出量は10万8887トン（前年同月比21.8％減）と大幅に減少した（表）。主要輸出先別に見ると、同月に首位の日本向けが２万3556トン（前年同月比35.2％減）、続く韓国向けが２万1150トン（同26.3％減）、中国向けが１万7147トン（同37.1％減）と軒並み大幅に減少した。USDAによると、米国内での牛肉価格の高騰や米ドル高の為替相場による米国産牛肉の価格競争力低下を背景に、競合の豪州産へのシフトが進んだ結果などとされている。一方、メキシコ向けは堅調な需要から、１万2124トン（同35.0％増）と大幅に増加しており、好調を維持している。

表　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年７月	23年７月	前年同月比（増減率）	輸出割合	23年（１～７月）	前年同期比（増減率）
日本	36,337	23,556	▲35.2%	21.6%	178,218	▲19.4%
韓国	28,711	21,150	▲26.3%	19.4%	186,856	▲14.1%
中国	27,269	17,147	▲37.1%	15.7%	138,496	▲18.3%
メキシコ	8,984	12,124	35.0%	11.1%	79,366	15.3%
カナダ	10,531	12,103	14.9%	11.1%	72,967	1.1%
台湾	6,386	7,318	14.6%	6.7%	54,633	▲6.8%
香港	3,371	3,435	1.9%	3.2%	22,681	22.9%
その他	17,630	12,054	▲31.6%	11.1%	94,000	▲23.6%
合計	139,219	108,887	▲21.8%	100.0%	827,218	▲12.9%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

（調査情報部　伊藤　瑞基）

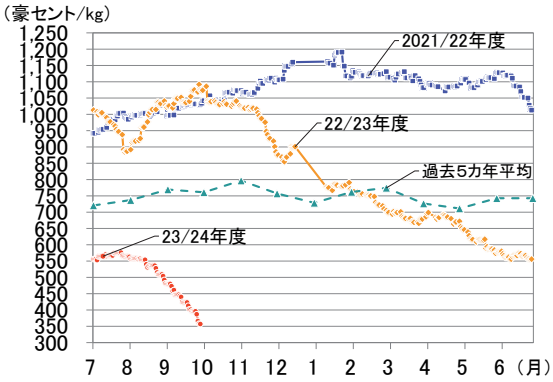
豪　州

エルニーニョ現象でと畜頭数が増加、米国向け輸出量は急増

23年９月の肉牛価格、前年同期比７割安

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2023年９月28日時点で１キログラム当たり357豪セント（350円：１豪ドル＝98.06円(注)）と前年同期の約３割の水準まで下落している（図１）。

図１　EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注１：年度は７月～翌６月。
注２：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部３州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

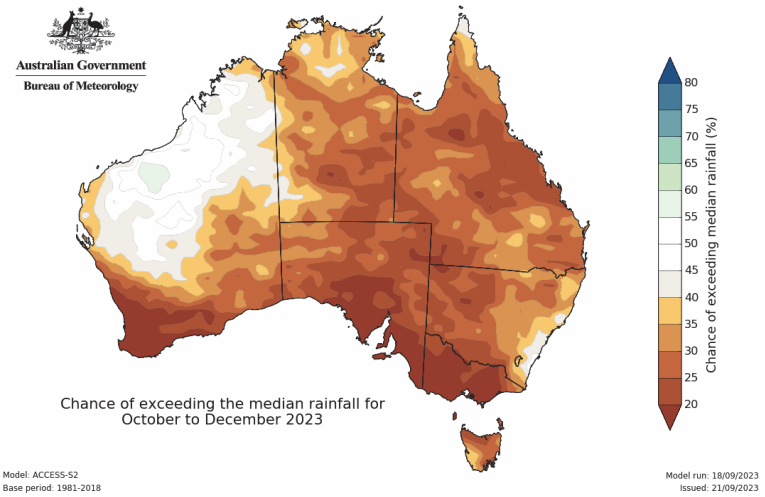
MLAは、エルニーニョ現象の発生により肥育に適した牧草の確保が懸念されていることで、牧草肥育業者からの若齢牛購買需要が軟化しているとみている。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年９月末TTS相場。

豪州気象局がエルニーニョ現象の発生を公式に宣言

豪州気象局（BOM）は2023年９月19日、エルニーニョ現象の発生を公式に宣言した。BOMによると、本現象は少なくとも24年２月末まで継続する可能性が高いとしており、今後３カ月の降雨予想でも、豪州の大部分で乾燥気候が見込まれている（図２）。

図２　2023年10～12月の豪州における降雨予想図

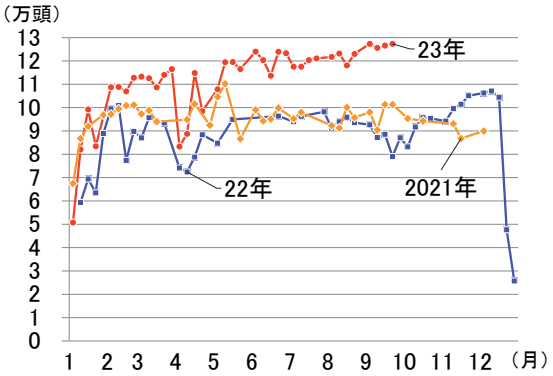


資料：BOMウェブサイトから引用

23年９月の成牛と畜頭数、前年の約1.5倍の水準に達する

週当たりの成牛と畜頭数は増加傾向で推移している。2023年９月第４週は12万7335頭と前年同期の約1.5倍に達し、20年５月以来の高水準となった（図３）。MLAによると、今後予想される乾燥気候に備えて、一部生産者は肉牛をと畜に回し、牛群の規模を縮小しているとしている。また、と畜頭数の増加について現地報道によると、東部州の一部食肉処理施設が出荷される肉牛の増加に対応するため、新たに土曜日も稼働させているとしている。

図３　成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注１：成牛のみ（子牛は含まない）。
注２：年末および３～４月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

23年８月の牛肉輸出量、米国向けは急増も日本向けは２割強の減少

豪州農林水産省（DAFF）によると、2023年８月の牛肉輸出量は、堅調な畜頭数を背景に、10万2351トン（前年同月比11.2%増）とかなり大きく増加した（表）。

輸出先別に見ると、米国向けが最も多く、２万5760トン（同71.2%増）と大幅に増加し、23年１～８月の累計でも13万8710トン（前年同期比62.1%増）と日本を抜いて最大の輸出先となった。MLAは、米国では干ばつ後も牧草生育のための十分な降雨がなく、牛群再構築に長期間を要すると見込んでおり、豪州からの牛肉輸出は今後も堅調に

表　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年８月	23年８月	前年同月比（増減率）	23年（１～８月）	前年同期比（増減率）
米国	15,050	25,760	71.2%	138,710	62.1%
韓国	18,368	17,304	▲ 5.8%	121,384	16.3%
中国	16,803	17,114	1.8%	132,859	29.7%
日本	22,007	16,868	▲ 23.4%	137,092	▲ 8.0%
東南アジア	9,738	12,714	30.6%	75,916	26.1%
中東	3,366	2,773	▲ 17.6%	17,542	▲ 6.2%
EU	766	1,073	40.1%	5,656	3.8%
その他	5,981	8,745	46.2%	48,876	23.0%
輸出量合計	92,079	102,351	11.2%	678,035	19.9%

資料：DAFF
注１：船積重量ベース。
注２：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。
注３：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ）の合計。

推移すると予測している。一方、日本向けは１万6868トン（前年同月比23.4％減）と大幅に減少した。これについてMLAは、日本をはじめとする北アジア全域で、新型コロナウイルス感染症（COVID－19）からの消費回復を見込んで輸入されたが、需要が低迷していることから、冷凍牛肉の在庫水準が高いことなどと分析している。また本年５月末にFTAが発効した英国向けは、300トン（同291％増）と少量であったが、MLAは９月、今後同国での豪州産牛肉販促活動を展開すると発表している。

（調査情報部　国際調査グループ）

ウルグアイ

23年１～７月の牛肉輸出量は前年同期を大幅に下回る

23年１～７月の牛と畜頭数は前年同期をかなり大きく下回る

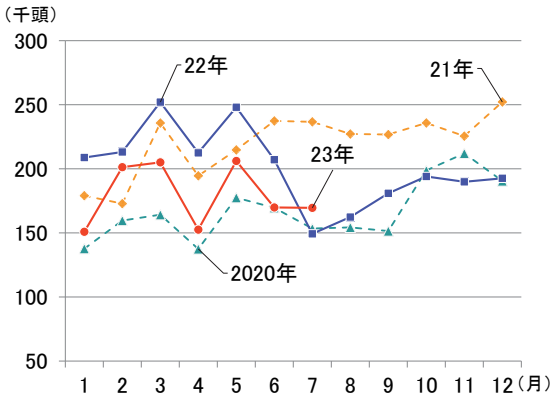
ウルグアイ食肉協会（INAC）によると、2023年１～７月の牛と畜頭数は125万5000頭（前年同期比15.8％減）となり、堅調な海外需要を背景に高水準であった前年同期からかなり大きく減少した（図１）。

ウルグアイではこの３年間、ラニーニャ現象の影響により干ばつとなった。特に22年12月～23年３月は高温、少雨の厳しい状況に陥り、多くの繁殖農家で経産牛の淘汰（とうた）も進んだ。同国農牧水産省は22年10月、90日間の農業緊急事態を宣言し生産者に対して飼料や水不足対策などの支援措置を講じ、23年９月まで延長された。

23年９月の去勢牛生産者出荷価格は前年同期比３割安で推移

INACによると、23年９月第２週の去勢牛生産者出荷価格は、中国からの需要低下などを背景に前年同期比30.7％安の１キログラム当たり3.54米ドル（533円：１米ドル＝150.58円(注)）となった（図２）。これまでの価格の推移を見ると、22年７月に同5.61米ドル（845円）の記録的高値となって以降は下落に転じ、その後23年１月を底に４月末には同4.45米ドル（670円）まで回復したが、再び下落傾向にある。

図１　牛と畜頭数の推移



資料：INAC

図２　去勢牛生産者出荷価格の推移

資料：INAC
注：枝肉重量ベース。

23年１～７月の牛肉輸出量、中国向けは前年同期比３割減

ウルグアイ中央銀行によると、2023年１～７月の牛肉輸出量は、18万9977トン（前年同期比19.6%減）と前年同期を大幅に下回った（表）。また、輸出平均単価は、１トン当たり5911米ドル（89万78円、同15.2%安）と前年同期比でかなり大きく下落した。

輸出先別に見ると、全体の６割を占める中国向けは、11万7367トン（同28.8％減）と前年同期を大幅に下回り、全体の輸出量減少の要因となった。これは、同国からの引き合いが弱いことやブラジルとの競合などによるものとみられる。一方、中国に次いで全体の15%程度を占める米国向けは２万7874トン（同17.8%増）と前年同期を大幅に上回った。このほか日本向けは3025トン（同22.0%減）と前年同期を大幅に下回った。

南米の大手食肉企業で大規模な食肉処理施設買収の動き

ブラジルに拠点を持ち国際的に事業を展開する大手食肉企業のミネルバフーズは23年８月、大手食肉企業のマルフリグが所有する南米の16の食肉処理施設（ブラジル：11、ウルグアイ：３、アルゼンチンおよびチリ：各１）などを75億レアル（2294億2500万円、１レアル＝30.59円(注)）で買収することに合意したと公表した。この取引が成立した場合、ミネルバフーズはウルグアイに計七つの牛と畜、食肉処理施設を所有することとなり、同国の処理量の４割程度を占めることとなる。このため、同国業界関係者の関心は高く、今後の動向が注目されている。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年９月末TTS相場。

表　牛肉輸出の推移

	2022年（１～７月）			23年（１～７月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	164,948	995,368	6,034	117,367	564,644	4,811	▲ 28.8%	▲ 43.3%	▲ 20.3%
米国	23,653	184,429	7,797	27,874	183,598	6,587	17.8%	▲ 0.5%	▲ 15.5%
オランダ	10,068	121,028	12,021	9,007	96,893	10,758	▲ 10.5%	▲ 19.9%	▲ 10.5%
カナダ	3,776	23,984	6,352	4,924	23,101	4,691	30.4%	▲ 3.7%	▲ 26.1%
イスラエル	6,304	52,225	8,284	3,887	30,269	7,787	▲ 38.3%	▲ 42.0%	▲ 6.0%
チリ	3,690	30,942	8,385	3,718	30,089	8,093	0.8%	▲ 2.8%	▲ 3.5%
ブラジル	3,912	39,787	10,170	3,142	28,558	9,089	▲ 19.7%	▲ 28.2%	▲ 10.6%
日本	3,879	32,070	8,268	3,025	21,392	7,072	▲ 22.0%	▲ 33.3%	▲ 14.5%
イタリア	3,177	27,290	8,590	2,939	22,709	7,727	▲ 7.5%	▲ 16.8%	▲ 10.0%
その他	12,898	140,606	10,901	14,094	121,681	8,634	9.3%	▲ 13.5%	▲ 20.8%
合計	236,305	1,647,729	6,973	189,977	1,122,934	5,911	▲ 19.6%	▲ 31.8%	▲ 15.2%

資料：ウルグアイ中央銀行
注１：HSコード0201、0202の合計。
注２：製品重量ベース。

（調査情報部　井田　俊二）

豚　肉

カナダ

23年の豚肉輸出量、減産の影響から前年比8.0%減の見込み

23年７月の豚総飼養頭数、前年比1.0%減

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2023年７月１日時点の豚総飼養頭数は1378万頭（前年比1.0%減）とわずかに減少した（表１）。内訳を見ると、繁殖豚が124万頭（同0.4%減）、肥育豚は1253万頭（同1.0%減）とともに前年を下回った。米国農務省（USDA）によると、カナダ国内の食肉加工処理能力の低下や、同国西部での干ばつの影響が減少の要因とされており、24年も減少傾向で推移するとみられる。

表１　豚飼養頭数の推移

（単位：千頭）

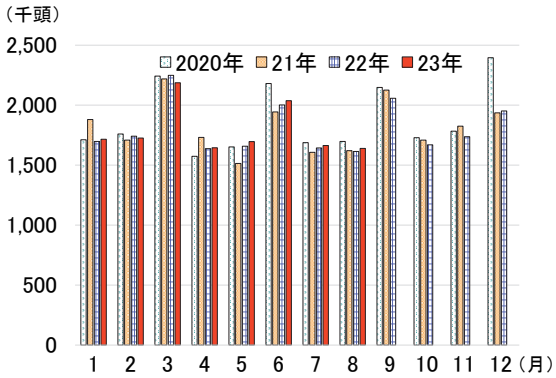
		2019年	20年	21年	22年	23年	前年比（増減率）
繁殖豚		1,234.9	1,245.6	1,270.4	1,247.3	1,242.9	▲0.4%
肥育豚		12,885.1	12,914.4	13,084.6	12,662.7	12,532.1	▲1.0%
	23kg未満	5,325.7	5,316.2	5,425.9	5,241.1	5,118.9	▲2.3%
	23 ～ 53kg	2,334.7	2,453.7	2,572.3	2,452.5	2,422.2	▲1.2%
	54 ～ 80kg	2,541.0	2,493.5	2,449.5	2,399.1	2,399.1	0.0%
	81kg以上	2,683.7	2,651.0	2,636.9	2,570.0	2,591.9	0.9%
合計		14,120.0	14,160.0	14,355.0	13,910.0	13,775.0	▲1.0%

資料：Statistics Canada
注：各年７月１日現在。

23年の豚肉生産量、前年比2.9%減の見込み

カナダ農務・農産食品省（AAFC）によると、2023年８月の豚と畜頭数は164万頭（前年同月比1.8%増）、23年１～８月の累計では1432万頭（前年同期比0.5%増）と、カナダ西部で母豚のと畜が進んだことなどから、わずかに増加した（図）。一方でUSDAによると、23年の豚肉生産量は、豚群が縮小傾向にある中で、カナダ東部の大手食肉加工処理施設の閉鎖や労働者不足などを背景に、前年比2.9%減の203万トンと前年をわずかに下回ると見込まれている。

図　豚と畜頭数の推移



資料：AAFC「Hog Slaughterings at Federally and/or Provincially Inspected Packing Plants」

23年１～７月の豚肉輸出量、前年同期比9.1％減

カナダ統計局によると、2023年７月の豚肉輸出量は８万500トン（前年同月比7.4％減）とかなりの程度減少し、23年１～７月の累計では60万1900トン（前年同期比9.1％減）とかなりの程度減少した（表２）。同期の輸出量を輸出先別に見ると、首位の米国向けは17万1000トン（同16.1％減）、第３位の日本向けは９万500トン（同21.8％減）とそれぞれ大幅に減少した。また、第４位のメキシコ向けが７万7000トン（同8.4％減）、フィリピン向けは６万2000トン（同34.0％減）、韓国向けが２万7600トン（同13.8％減）と主要輸出先の多くで前年同期を下回る結果となった。一方、第２位の中国向けはカナダ国内の一部食肉加工処理施設を対象とした輸入停止措置が解除されたことから、10万3200トン（同37.1％増）と大幅に増加した。23年の豚肉輸出量は、減産傾向にある中で、国内需要が堅調にあることに加えて主要輸出先からの需要減退などにより、130万トン（前年比8.0％減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

表２　輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

	2022年７月	23年７月	前年同月比（増減率）	シェア	23年（１～７月）	前年同期比（増減率）	シェア
米国	26.8	25.5	▲4.6%	31.7%	171.0	▲16.1%	28.4%
中国	9.5	10.6	11.0%	13.2%	103.2	37.1%	17.1%
日本	15.8	11.7	▲26.2%	14.5%	90.5	▲21.8%	15.0%
メキシコ	12.3	12.8	4.2%	15.9%	77.0	▲8.4%	12.8%
フィリピン	10.0	8.6	▲14.1%	10.7%	62.0	▲34.0%	10.3%
韓国	5.5	3.0	▲44.6%	3.8%	27.6	▲13.8%	4.6%
その他	7.0	8.3	17.7%	10.3%	70.5	23.5%	11.7%
合計	86.9	80.5	▲7.4%	100.0%	601.9	▲9.1%	100.0%

資料：Statistics Canada
注１：HSコード0203。
注２：製品重量ベース。

（調査情報部　伊藤　瑞基）

ＥＵ

減産が継続するも、豚枝肉価格は９カ月ぶりに下落

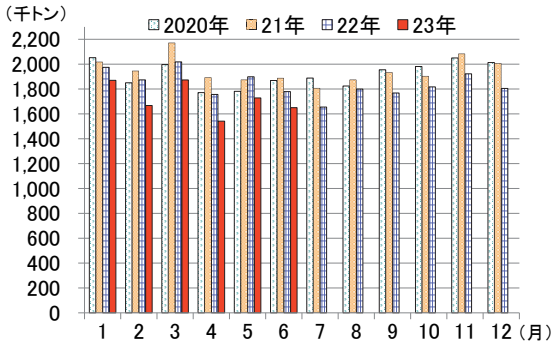
23年上半期の豚肉生産量、前年同期比8.6％減

欧州委員会によると、2023年６月の豚肉生産量（EU27カ国）は、165万トン（前年同月比7.3％減）とかなりの程度減少し、13カ月連続で前年同月を下回った（図１）。同月の１頭当たり枝肉重量は93.7キログラム（同1.3％増）と前年同月をわずかに上回ったが、と畜頭数が1761万頭（同8.5％減）とかなりの程度減少したことが影響した。欧州での母豚飼養頭数の減少や、アフリカ豚熱

（ASF）(注1) の収束が見通せないことなどが飼養頭数の減少につながっている。

（注１）直近はスウェーデンで発生している。詳しくは、海外情報「スウェーデン国内のイノシシにアフリカ豚熱が発生（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003598.html）を参照されたい。

図１　豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：枝肉重量ベース。

23年上半期（１～６月）の豚肉生産動向を主要国別に見ると、生産量１位のスペインは、前年同期比5.8％減の248万5000トンとなった（表１）。中国向け輸出の減退に加え、23年３月から同国政府が実施しているアニマルウェルフェア規制の厳格化の影響 (注2) が要因とみられる。同国の豚肉生産について米国農務省（USDA）は、24年も減少傾向で推移すると予測している。

また、ドイツとポーランドは、いずれもASFの発生が継続しており、生産意欲が減退していることなどから減産となった。さらにデンマークでは、と畜頭数が745万7000頭（同19.0％減）と大幅に減少した。これは、飼養頭数が減少するEU域内向けを中心とした生体豚輸出増加の反動であり、同期間の輸出頭数は848万頭（同7.3％増）とかなりの程度増加した。

（注２）海外情報「スペイン豚肉生産、アニマルウェルフェア規制の厳格化などで減少見込み（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003607.html）を参照されたい。

23年８月の枝肉価格、９カ月ぶりに前月を下回る

欧州委員会によると、2023年８月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比18.3％高の100キログラム当たり238.06ユーロ（３万7971円：１ユーロ＝159.50円 (注3)）となった（図２）。同価格は、引き続き前年を上回っているが、前月比4.6％安

表１　主要生産国別豚肉生産量の推移

（単位：千トン）

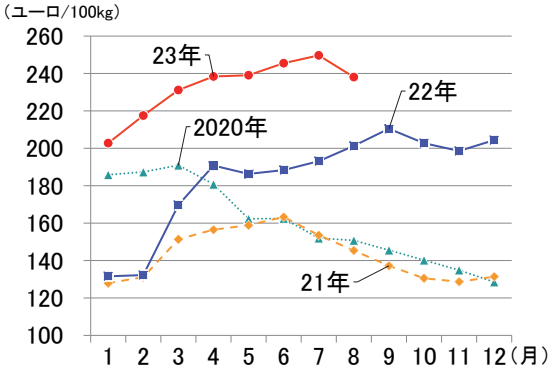
	2022年６月	23年６月	前年同月比（増減率）	23年（１～６月）	前年同期比（増減率）
スペイン	393	390	▲ 0.6%	2,485	▲ 5.8%
ドイツ	374	344	▲ 8.0%	2,060	▲ 9.4%
フランス	181	178	▲ 1.3%	1,040	▲ 4.8%
ポーランド	140	130	▲ 7.0%	855	▲ 6.1%
オランダ	141	115	▲ 18.3%	734	▲ 14.1%
デンマーク	125	93	▲ 25.3%	662	▲ 21.4%
イタリア	100	98	▲ 2.0%	617	▲ 5.5%
その他	326	301	▲ 7.7%	1,877	▲ 7.8%
合計	1,779	1,650	▲ 7.3%	10,330	▲ 8.6%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

となり、9カ月ぶりに前月を下回った。また、週別の価格動向を見ると、7月中旬以降から前週を下回って推移しており、直近9月18日の週別価格は、前月第3週比2.1%安の同227.94ユーロ（3万6356円）となった。この下落について現地報道によると、天候不順によるバーベキュー需要などの低下を挙げており、と畜場の一部では操業を縮小する動き（注4）もあるとされている。

（注3）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年9月末TTS相場。
（注4）デンマークのデニッシュ・クラウン社では経営合理化計画が公表されている。海外情報「デニッシュ・クラウン社、経営合理化計画を公表（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003593.html）を参照されたい。

図2　豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注：EU（CLASS E）平均価格。

23年7月の豚肉輸出量、アジアを中心に大幅に減少

欧州委員会によると、2023年7月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、13万9342トン（前年同月比41.1%減）と大幅に減少した（表2）。アジア向け輸出の減少が大きく、特にフィリピン向けは同69.9%減の7126トンと大幅に減少した。これは、主要競合国のカナダや米国、ブラジルに比べてEUの豚肉価格が高い水準にあることが要因であり、現地報道によると、フィリピンはインフレ圧力による需要の低迷から豚肉や牛肉に代わり鶏肉や豚の内臓などの輸入に切り替えているためとされている。

一方、英国向けは同8.4%増の2万7306トンとかなりの程度増加した。英国農業園芸開発委員会（AHDB）によると、英国は外食産業向けの豚肉とソーセージの輸入を増加させているという。なお、同国の本年上半期（1～6月）の豚肉生産量は前年同期をかなり大きく下回り、また、豚肉価格は22年5月からEU平均を上回って推移している。

表2　輸出先別豚肉輸出量の推移（EU域外向け）

（単位：トン）

	2022年7月	23年7月	前年同月比（増減率）	輸出割合	23年（1～7月）	前年同期比（増減率）
中国	66,635	37,079	▲ 44.4%	26.6%	358,534	▲ 16.9%
英国	25,186	27,306	8.4%	19.6%	197,125	11.6%
日本	31,461	15,747	▲ 49.9%	11.3%	186,475	▲ 20.0%
韓国	19,866	12,936	▲ 34.9%	9.3%	112,613	▲ 32.6%
フィリピン	23,654	7,126	▲ 69.9%	5.1%	62,211	▲ 56.2%
米国	3,912	3,722	▲ 4.9%	2.7%	22,680	▲ 59.5%
その他	65,685	35,426	▲ 46.1%	25.4%	311,965	▲ 33.6%
合計	236,399	139,342	▲ 41.1%	100.0%	1,251,603	▲ 25.3%

資料：「Global Trade Atlas」
注1：製品重量ベース。
注2：HSコードは0203。

（調査情報部　渡辺　淳一）

鶏　肉

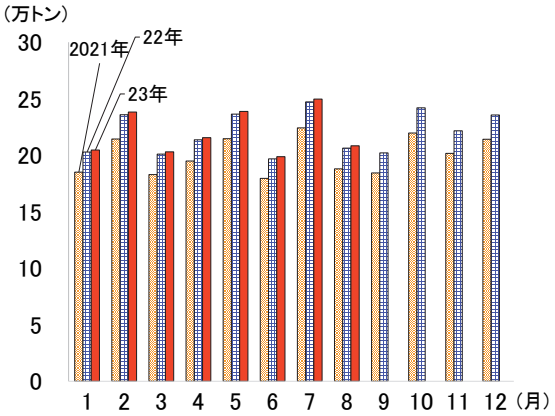
タ　イ

鶏肉卸売価格は飼料価格を反映して高値水準も下落傾向

23年１～８月の鶏肉生産量は前年同期を上回る

タイ農業協同組合省農業経済局によると、2023年１～８月の鶏肉生産量は175万6810トン（前年同期比1.0%増）となった（図１）。米国農務省海外農務局（USDA/FAS）によると、23年のタイの鶏肉生産量は前年比4.5％増と予測されているが、COVID－19拡大前の対前年平均増加率が５～８％であったことを考慮すると、現時点では以前ほどの生産拡大の勢いを取り戻せていない。この背景として、飼料価格の高騰や国内の観光産業の回復の遅れによる鶏肉需給の緩和などがあるとみられている。

図１　鶏肉生産量の推移



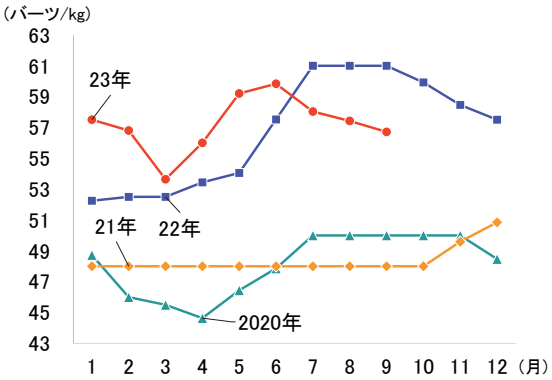
資料：タイ農業協同組合省農業経済局

23年７月以降鶏肉卸売価格は下落傾向

2023年９月の鶏肉卸売価格は、前月比1.2%安の1キログラム当たり56.7バーツ（236円：１バーツ＝4.17円(注1)）となった（図２）。同価格は23年７月以降下落傾向で推移しており、22年の水準を割り込む状況となっている。22年下半期以降の鶏肉価格は、豚肉価格高による代替需要や飼料価格の高騰を反映して高値で推移していたが、23年に入り豚肉価格の下落や主要輸出先でのインフレなどによる購買力の低下などによる需要の減速から、下落傾向で推移している。現地報道によると、10月の菜食週間(注2)明けの需要回復による価格の反転が期待されている。

（注１）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年９月末TTS相場。
（注２）主に中国系タイ人の間で年に一度行われる慣習で、期間中は身を清めるため、肉類や牛乳、卵、酒類のほか、魚醤を含む味付けの濃い調味料や、ニンニク、ネギ、パクチーなど香りの強い野菜の摂取を避ける（独立行政法人日本貿易振興機構「ビジネス短信」より引用）。

図２　鶏肉卸売価格の推移



資料：タイ農業協同組合省農業経済局

23年１～７月の冷凍鶏肉輸出は前年を大幅に上回る

2023年１～７月の冷凍鶏肉の輸出量は、27万3651トン（前年同期比48.0%増）と前

年同期を大幅に上回った（表１）。一方、同年７月単月の輸出量は３万1323トン（前年同月比10.9%増）と増加幅は縮小傾向にある。

輸出先別に見ると、日本向けは外食産業を中心に鶏肉需要が回復してきたこと、中国および香港向けはタイ以外の輸入先で発生した高病原性鳥インフルエンザにより、タイ産への需要が高まったことで、それぞれ大幅増となった。また、韓国向けは、同国内での鶏肉生産コストの上昇に伴う鶏肉価格高騰対策および安定供給を目的とした関税の引き下げを実施していることで、同じく大幅増となった。

表１　輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

（単位：万トン）

	2019年	20年	21年	22年	23年（１～７月）	前年同期比（増減率）
日本	12.2	12.8	14.3	13.6	9.0	21.5%
マレーシア	4.1	4.1	4.7	7.2	5.1	26.3%
中国	7.6	11.5	10.4	8.5	6.7	64.6%
香港	0.5	0.9	1.0	1.0	3.2	370.4%
韓国	1.1	0.8	1.3	1.2	1.8	205.4%
その他	4.8	3.3	3.2	3.3	1.6	▲ 6.3%
合計	30.3	33.3	34.9	34.9	27.4	48.0%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは020714。

23年１～７月の鶏肉調製品の輸出量は前年を下回る

2023年１～７月の鶏肉調製品輸出量は、33万6271トン（前年同期比12.0%減）と前年同期をかなり大きく下回った（表２）。日本向けは16万989トン（同12.2%減）と前年同期をかなり大きく下回り、欧州（オランダおよび英国）向けも前年同期を下回っている。USDA/FASによると、日本および欧州向けは、物価上昇や金利の引き上げから消費者の購入意欲が低下しているとされ、23年下半期の輸出量は引き続き前年割れが続くとみられている。

表２　輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

（単位：万トン）

	2019年	20年	21年	22年	23年（１～７月）	前年同期比（増減率）
日本	29.5	29.2	28.8	31.1	16.1	▲ 12.2%
英国	16.5	14.2	13.6	17.3	9.2	▲ 7.7%
オランダ	3.6	2.8	3.9	5.6	2.4	▲ 30.1%
韓国	3.0	2.4	2.1	3.1	1.8	▲ 8.6%
その他	6.4	6.1	6.7	8.1	4.2	▲ 8.9%
合計	59.0	54.6	55.0	65.2	33.6	▲ 12.0%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは160232。

（調査情報部　海老沼　一出）

牛乳・乳製品

米　国

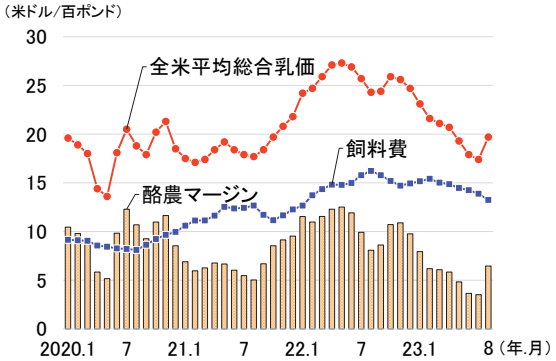
23年８月の乳価は反発

23年８月の乳価は10カ月ぶりに前月を上回る

米国農務省農場サービス局（USDA/FSA）によると、2023年８月の全米平均総合乳価は、生乳100ポンド当たり19.7米ドル（１キログラム当たり65.4円：１米ドル＝150.58円(注1)、前年同月比18.9%安）と前年同月を大幅に下回るも、チーズなどの乳製品価格が上昇する中で、前月比では13.2%高と10カ月ぶりに前月を上回った（図１）。この結果、同月の酪農マージン(注2)は同6.46米ドル（同21.5円）となり、19年以来最低水準となった前月から83.5%増と大幅に増加した。また、同月の生乳生産量は861万トン（前年同月比0.2%減）、乳用経産牛飼養頭数は939万頭（同0.2%減）とともに前年並みとなった。

（注１）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2023年９月末TTS相場。
（注２）酪農家のセーフティーネット制度である酪農マージン保障プログラム（DMC）で算定される全米平均総合乳価と飼料費の差額としての収益。DMCでは、酪農マージンが発動基準を下回った場合、補填（ほてん）が発動される。

図１　酪農マージンの推移

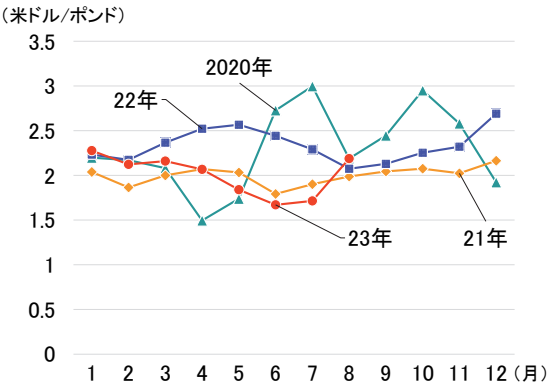


資料：USDA/FSA

23年８月のチーズ卸売価格は前年同月比5.5%高

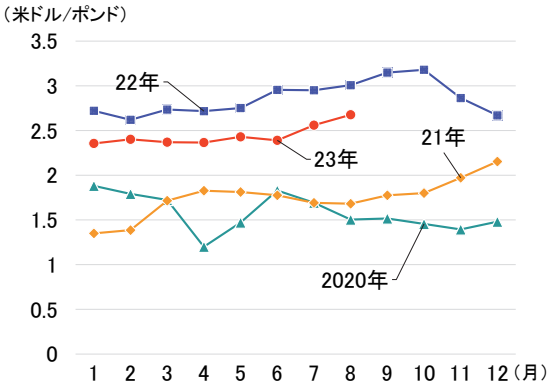
米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、2023年８月のチーズ卸売価格は、国内の堅調な需要を反映し、前年同月比5.5%高の１ポンド当たり2.19米ドル（１キログラム当たり726円）とやや上昇した（図２）。また、バター卸売価格は同11.0%安の１ポンド当たり2.68米ドル（１キログラム当たり888円）と前年同月比で下落したものの、前月比では4.5%高となった（図３）。現地情報によると、23年は価格が高騰した前年に比べて乳製品消費が拡大しているとされ、23年１～７月の消費量はチーズが前年同期比1.2%増、バターが同8.2%増、脱脂粉乳が同6.1%増となった。

図２　チーズ卸売価格の推移



資料：USDA「DAIRY MARKET NEWS」
注：チェダーチーズ、40ポンドブロックのもの、ウイスコンシン地区のFOB価格。

図３　バター卸売価格の推移



資料：USDA「DAIRY MARKET NEWS」
注：シカゴ・マーカンタイル取引所（CME）の現物価格（グレードAA）。

23年７月のバター輸出量は大幅に減少、脱脂粉乳はわずかに増加

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2023年７月の主要乳製品輸出量は、アジア諸国の需要低迷に加えEU諸国やニュージーランドとの競合により、脱脂粉乳および乳糖を除いていずれも前年同月を下回った（表）。

品目別に見ると、脱脂粉乳はメキシコの旺盛な需要により前年同月比2.8%増とわずかに増加し、チーズはアジア諸国の需要が限定的となるも、日本の需要回復および中南米からの堅調な需要により、同1.2%減とわずかな減少にとどまった。バターは国内の需要増に伴い輸出価格が上昇する中、主要輸出先であるカナダや韓国、バーレーンからの需要が減少し、同61.3%減と大幅に減少した。

表　主要乳製品輸出量の推移

（単位：千トン）

	2022年７月	23年７月	前年同月比（増減率）	23年（１～７月）	前年同期比（増減率）
脱脂粉乳	63.8	65.5	2.8%	490.1	▲0.6%
チーズ	37.2	36.8	▲1.2%	250.6	▲6.0%
乳糖	35.4	35.6	0.4%	254.7	8.9%
ホエイ	20.0	11.5	▲42.6%	106.0	▲11.4%
WPC	14.8	10.5	▲29.0%	82.8	▲20.0%
バター	6.1	2.4	▲61.3%	20.4	▲41.8%

資料：USDA「Dairy Data」
注：製品重量ベース。

（調査情報部　小林　大祐）

E　U

23年１～７月の乳製品生産量、バター、チーズなど前年同期を上回る

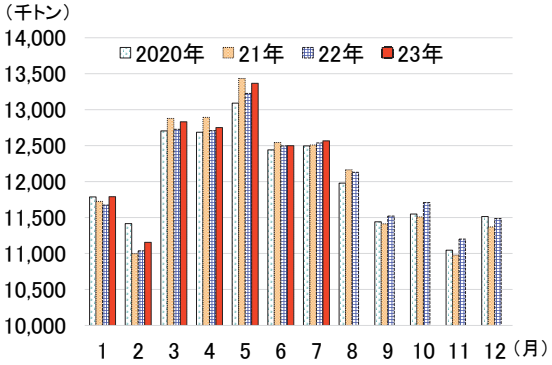
23年７月の生乳出荷量は前年並み

欧州委員会によると、2023年７月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1256万7000トン（前年同月比0.2%増）と前年同月並みになり、22年９月から続く増産傾向に歯止めがかかりつつある（図１）。

主要生産国別に見ると、比較的冷涼で降雨

に恵まれたドイツ（同2.1％増）やオランダ（同1.8％増）、ポーランド（同2.1％増）などは前年同月を上回った（表）。これらの国では生乳に含まれる脂肪およびタンパク質の含有率が前年を上回っており、チーズおよびホエイの増産が見込まれている。一方、厳しい干ばつとなったフランス（同2.9％減）やイタリア（同5.8％減）は前年同月を下回った。

図１　生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表　主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：千トン）

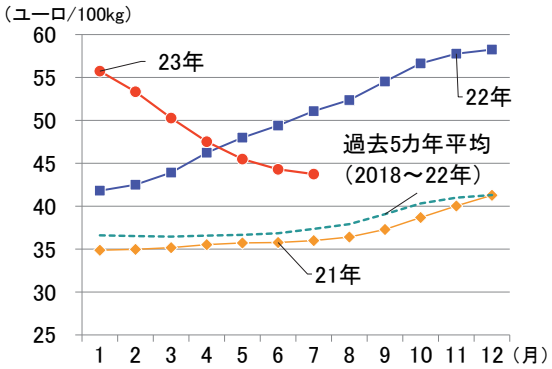
	2022年7月	23年7月	前年同月比（増減率）	23年（1～7月）	前年同期比（増減率）
ドイツ	2,748	2,806	2.1%	19,384	2.6%
フランス	1,977	1,920	▲ 2.9%	14,194	▲ 2.3%
オランダ	1,164	1,185	1.8%	8,322	2.9%
ポーランド	1,104	1,127	2.1%	7,763	2.1%
アイルランド	1,053	1,051	▲ 0.2%	5,783	▲ 0.8%
イタリア	1,083	1,020	▲ 5.8%	7,473	▲ 2.5%
スペイン	607	618	1.8%	4,372	▲ 0.0%
デンマーク	494	498	0.9%	3,373	1.0%
ベルギー	387	397	2.7%	2,759	3.6%
その他	1,921	1,944	1.2%	13,538	0.9%
合計	12,538	12,567	0.2%	86,963	0.6%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

生乳取引価格の下落は鈍化

欧州委員会によると、2023年７月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり43.74ユーロ（6977円：１ユーロ＝159.50円(注)、前年同月比14.4％安）と前年同月をかなり大きく下回った（図２）。ただし、前月比（1.3％安）で見ると同年１月からの下落幅（同2.6～5.8％安）を下回っており、下落傾向に鈍化が見られる。この傾向について米国農務省は、EU域内乳業から

図２　生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」
注１：直近月は推定値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

の乳製品加工需要が回復してきたことを挙げている。

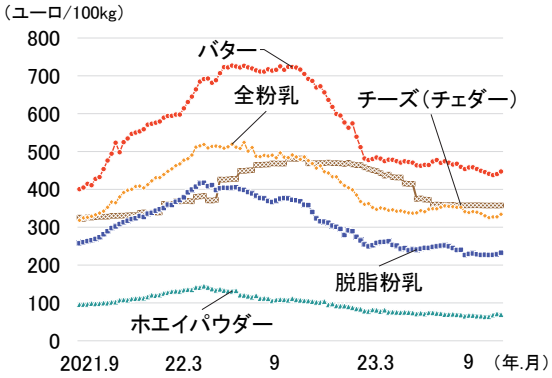
（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年９月末TTS相場。

主要乳製品生産量は前年同期比増、23年６月以降の価格は横ばいで推移

欧州委員会によると、直近の2023年９月24日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、バターが100キログラム当たり447ユーロ（７万1297円、前年同期比38.2％安）、脱脂粉乳が同233ユーロ（３万7164円、同37.5％安）、全粉乳が同334ユーロ（５万3273円、同31.9％安）、チーズが同358ユーロ（５万7101円、同25.6％安）、ホエイパウダーが同70ユーロ（１万1165円、同37.8％安）となり、すべての品目で前年同期を大幅に下回った（図３）。しかしながら、23年６月以降は各乳製品の価格はほぼ横ばいで推移している。

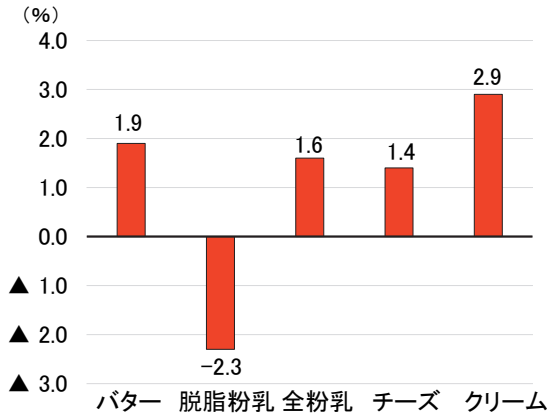
23年１～７月の乳製品生産量は、安定した生乳出荷量や乳固形分の増加から脱脂粉乳を除く主要乳製品で前年同期を上回っている（図４）。また、乳製品輸出量は、乳製品価格が軟化したこともあり、バターやチーズが堅調に推移している。

図３　乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

図４　主要乳製品生産量（2023年１～７月）の対前年同期増減率



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

（調査情報部　渡辺　淳一）

N　Z

生乳生産量は微減、生産者支払乳価は低水準で推移

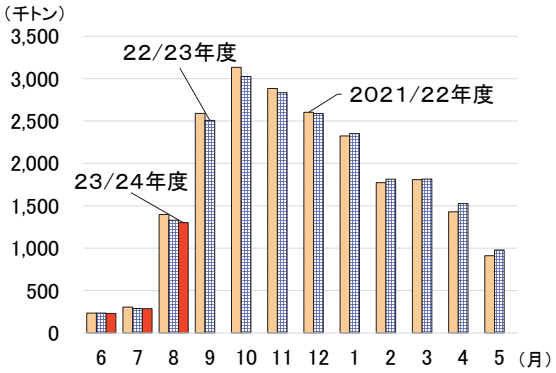
23年８月の生乳生産量、３カ月連続で前年同月比微減

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2023年８月の生乳生産量は130万1000トン（前年同月比2.1％減）と３カ月連続で前年同月をわずかに下回った（図１）。この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、南島の主要生乳生産地帯では、非常事態宣言が発出されるほどの大雨による洪水の発生や、一方で干ばつが発生するなど、各地の異常気象が牧草の生育を妨げたとして

いる。また、23/24年度（６月～翌５月）の生産者支払乳価は、同国乳業最大手のフォンテラ社が生乳の固形分(注1)１キログラム当たり平均7.25NZドル（661円：1NZドル＝91.19円(注2)）としている中で、同国酪農団体のデイリーNZが損益分岐点としている同7.51NZドル（685円）を下回っている状況にある。このため現地報道では、生乳生産量が前年度水準を下回る中で、生産者支払乳価の下落から酪農家の多くが利益を見込めず、厳しい経営になると伝えている。

（注１）乳脂肪分および乳タンパク質。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年９月末TTS相場。

図１　生乳生産量の推移



資料：DCANZ
注：年度は６月～翌５月。

23年８月の乳製品輸出量、主要３品目が大幅増

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2023年８月の乳製品輸出量は、全粉乳を除く主要３品目が前年同月を大幅に上回った（表、図２）。品目別では、脱脂粉乳は最大の輸出先である中国向けの伸びから大幅に増加した。また、バターおよびバターオイルも同様に増加した。さらにチーズは、主要輸出先の豪州、韓国、日本向けの増加から大幅に増加した。一方、全粉乳は最大の輸出先である中国向けやインドネシア、豪州向けが減少したことで大幅に減少した。

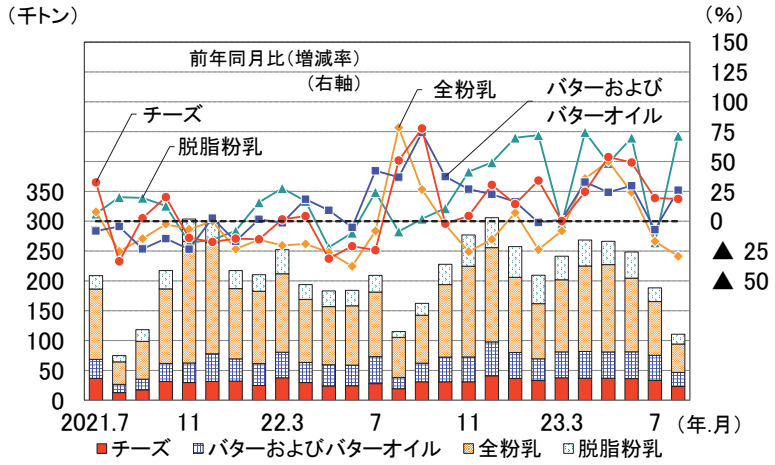
表　乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年８月	23年８月	前年同月比（増減率）	23/24年度（７～８月）	前年同期比（増減率）
脱脂粉乳	9,578	16,424	71.5%	39,355	4.9%
全粉乳	67,191	47,459	▲ 29.4%	137,503	▲ 21.6%
バターおよびバターオイル	18,839	23,733	26.0%	65,809	2.7%
チーズ	19,422	23,045	18.7%	56,260	19.1%
合計	115,030	110,661	▲ 3.8%	298,927	▲ 7.8%

資料：Stats NZ
注１：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。
注２：製品重量ベース。
注３：年度は７月～翌６月。

図２　乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ
注：製品重量ベース。

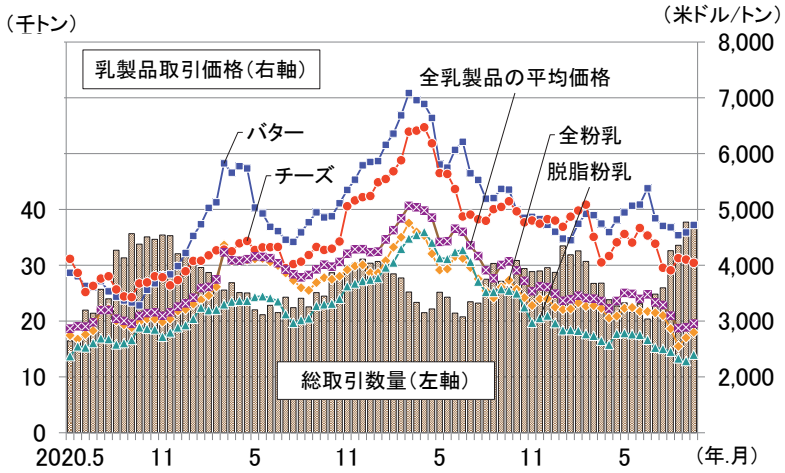
23年９月下旬のGDT価格、主要３品目が上昇

2023年９月19日開催のGDT（注３）平均取引価格は、チーズを除く主要３品目すべてで前回開催（９月５日）時の価格を上回った（図３）。この結果、全乳製品の平均取引価格は１トン当たり2957米ドル（44万5265円：１米ドル＝150.58円（注１）、前回比2.4％高）とわずかに上昇した。

今回の価格上昇について現地金融機関の分析によると、直近のGDT価格が低水準で推移したことで、一過性の需要が生じた可能性が高いとしている。また、今後のGDT価格については、全粉乳を中心に最大の輸出先である中国の需要回復に大きな変化が見込めないことから、引き続き不透明としている。

（注３）グローバルデイリートレード。月２回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。

図３　GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

（調査情報部　工藤　理帆）

中　国

需給緩和により乳価は下落傾向、輸入量も減少

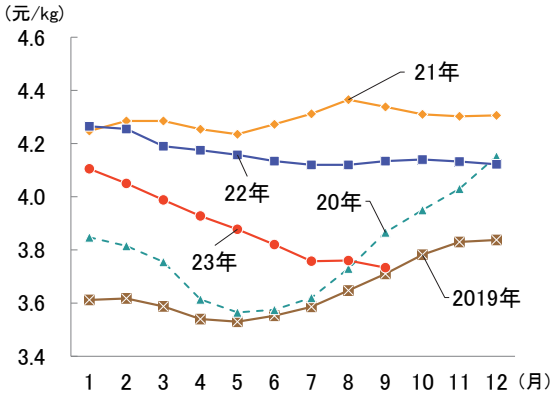
生乳価格の下落幅は縮小も歯止めがかからず

中国農業農村部によると、2023年９月の生乳価格は、１キログラム当たり3.73元（77.43円：１元＝20.76円(注１)、前年同月比9.7％安）と前年同月をかなりの程度下回った（図１）。同価格は、21年９月以降下落傾向で推移している。23年２月以降は６カ月連続で前月比１％以上の下落が続いていたが、９月は前月比0.7％安と下落幅は縮小した。

この要因について現地専門家は、（１）国内の生乳生産量が増加している(注２)一方、（２）COVID－19の拡大やゼロコロナ政策に起因する需要減退からの回復が鈍いこと―を挙げている。

中国農業農村部が23年４月に公表した「中国農業展望報告（2023―32）」では、23年の生乳価格について需要が緩やかに回復することなどから、下落傾向は緩和すると予測していた(注３)。

図１　生乳価格の推移



資料：中国農業農村部
注：主要10省・自治区（全国の生乳生産量の８割以上を占める）の農家庭先価格の平均。

（注１）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の23年９月末TTS相場。
（注２）『畜産の情報』2023年９月号「生乳生産量は好調も、乳価下落はなお止まらず」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002891.html）を参照されたい。
（注３）海外情報「中国農業展望報告（2023－2032）を発表（牛乳・乳製品編）（中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003562.html）を参照されたい。

乳製品輸入量は５品目で減少傾向

2023年１～８月の主要乳製品８品目の輸入量は、８品目中５品目で前年割れとなった（表）。

このうち、全粉乳は35万1000トン（前年同期比38.4％減）と最も減少幅が大きい。これは、国内需要の低下から例年であれば１月は年間輸入量の２～３割程度が輸入されるところ、前年同月比79.8％減となったことが影響した（図２）。５月以降は前年をやや上回るか同等程度の水準で推移しているが、現地専門家は、国内需要（外食や製菓・製パンなど業務向け）が回復傾向にある一方、生乳生産量の好調な増加で国産全粉乳在庫が積み増していることなどから、輸入量の増加は小幅になっているとしている。

なお、上述の５品目のうち３品目（ヨーグルト、バターおよび育児用調製粉乳）の輸入量は前年同期を下回っているものの、輸入額は、輸入平均単価の上昇（ヨーグルト：前年同期比16.7％高、バター：同13.1％高、育児用調製粉乳：同15.1％高）を受け、前年同期を上回っている。

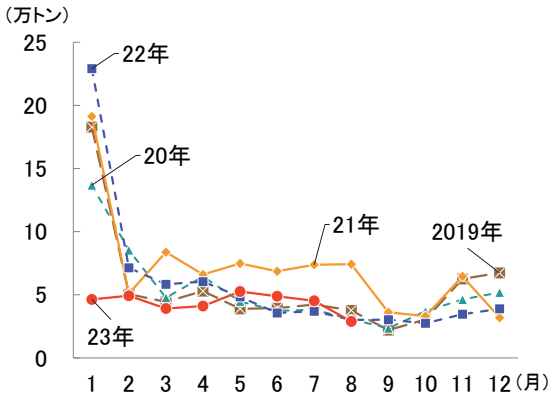
表　主な乳製品の品目別輸入量の推移

（単位：万トン）

	2019年	20年	21年	22年	23年（1～8月）	前年同期比（増減率）	【参考：輸入額】前年同期比（増減率）
全粉乳	67.1	64.4	84.9	70.1	35.1	▲38.4%	▲38.4%
脱脂粉乳	34.4	33.6	42.6	33.5	26.3	12.5%	5.1%
飲用乳	72.9	84.5	99.6	72.2	35.6	▲29.6%	▲14.6%
ヨーグルト	3.2	2.8	2.5	2.2	1.4	▲12.6%	2.0%
チーズ	11.5	12.9	17.6	14.5	12.3	18.8%	36.6%
バター	6.2	8.6	9.7	10.1	6.5	▲10.5%	1.2%
育児用調製粉乳	35.6	34.8	27.3	28.0	17.6	▲2.5%	12.2%
ホエイ	45.1	62.3	71.8	59.9	43.2	17.8%	11.2%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトは0403.10（2021年以前）と0403.20（22年以降）、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。なお、ヨーグルトは、22年1月1日のHS品目表の改訂により、市場実態に合わせてヨーグルトの範囲が拡大されたため、21年以前と22年以降のデータに連続性はない。

図２　全粉乳輸入量の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0402.21と0402.29。

（調査情報部　平山　宗幸）

飼料穀物

世　界

世界の期末在庫、生産量、輸入量、期末在庫は前回見込みから増加

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2023年９月12日、23/24年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は12億1429万トン（前年度比5.1％増）と前月から79万トン上方修正され、前年度をやや上回り、過去２番目の生産量が見込まれている。地域別に見ると、米国の収穫面積とウクライナの単収の増加見込みを受け、前月より上方修正された。また、EUではフランスとブルガリアで減産が見込まれる一方で、ドイツで増産が見込まれ、EU全体としては、下方修正された。

輸入量は、世界全体で１億8712万トン（同6.6％増）と前月から１万トン上方修正された。地域別に見ると、EUは2400万トン（同2.0％減）、中国は2300万トン（同24.3％増）とそれぞれ前月から据え置かれた。

消費量は、世界全体で11億9977万トン（同2.8％増）と前月から60万トン下方修正された。地域別に見ると、主要消費国である米国および中国が据え置かれた中で、アルゼンチンが上方修正された一方、カナダおよびEUが下方修正された。

輸出量は、各地域とも前月から動きがなく、世界全体では１億9619万トン（同8.0％増）と据え置かれた。

この結果、期末在庫は３億1399万トン（同4.8％増）と前月から294万トン上方修正され、前年度からやや増加し、21/22年度の水準になると見込まれている。

表　主要国のトウモロコシの需給見通し（2023年９月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

区　　分		2021/22年度	22/23年度（推計値）	23/24年度（８月予測）	23/24年度（９月予測）	23/24年度 前年度比（増減率）
米国						
	期首在庫	31.36	34.98	37.00	36.87	5.4%
	生産量	382.89	348.75	383.83	384.42	10.2%
	輸入量	0.62	1.02	0.64	0.64	▲ 37.3%
	消費量	317.09	305.58	313.45	313.45	2.6%
	輸出量	62.80	42.29	52.07	52.07	23.1%
	期末在庫	34.98	36.87	55.94	56.40	53.0%
アルゼンチン						
	期首在庫	1.18	1.80	1.51	1.11	▲ 38.3%
	生産量	49.50	34.00	54.00	54.00	58.8%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	14.20	11.70	13.50	13.60	16.2%
	輸出量	34.69	23.00	40.50	40.50	76.1%
	期末在庫	1.80	1.11	1.51	1.01	▲ 9.0%
ブラジル						
	期首在庫	4.15	3.97	8.97	10.27	2.6倍
	生産量	116.00	137.00	129.00	129.00	▲ 5.8%
	輸入量	2.60	1.30	1.20	1.20	▲ 7.7%
	消費量	70.50	75.00	77.50	77.50	3.3%
	輸出量	48.28	57.00	55.00	55.00	▲ 3.5%
	期末在庫	3.97	10.27	6.67	7.97	▲ 22.4%
ウクライナ						
	期首在庫	0.83	7.59	1.39	1.41	▲ 81.4%
	生産量	42.13	27.00	27.50	28.00	3.7%
	輸入量	0.02	0.02	0.00	0.02	0.0%
	消費量	8.40	5.20	5.50	5.50	5.8%
	輸出量	26.98	28.00	19.50	19.50	▲ 30.4%
	期末在庫	7.59	1.41	3.89	4.43	3.1倍
EU						
	期首在庫	7.83	11.36	7.19	7.19	▲ 36.7%
	生産量	71.52	52.23	59.70	59.40	13.7%
	輸入量	19.74	24.50	24.00	24.00	▲ 2.0%
	消費量	81.70	77.10	79.50	79.20	2.7%
	輸出量	6.03	3.80	4.10	4.10	7.9%
	期末在庫	11.36	7.19	7.29	7.29	1.4%
中国						
	期首在庫	205.70	209.14	205.32	205.82	▲ 1.6%
	生産量	272.55	277.20	277.00	277.00	▲ 0.1%
	輸入量	21.88	18.50	23.00	23.00	24.3%
	消費量	291.00	299.00	304.00	304.00	1.7%
	輸出量	0.00	0.02	0.02	0.02	0.0%
	期末在庫	209.14	205.82	201.30	201.30	▲ 2.2%
世界計						
	期首在庫	292.88	310.54	297.92	299.47	▲ 3.6%
	生産量	1218.71	1155.62	1213.50	1214.29	5.1%
	輸入量	184.44	175.60	187.11	187.12	6.6%
	消費量	1201.06	1166.69	1200.37	1199.77	2.8%
	輸出量	206.59	181.66	196.19	196.19	8.0%
	期末在庫	310.54	299.47	311.05	313.99	4.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注：各国の穀物年度　世界、米国：９月～翌８月／ウクライナ、EU、中国：10月～翌９月／アルゼンチン、ブラジル：３月～翌２月。

（調査情報部　高田　勇一）

米国の減産見込みも、大豆期末在庫は前年度比大幅増

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2023年９月12日、23/24年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界の生産量は４億133万トン（前年度比8.4%増）と前月から146万トン下方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは前月から据え置かれた

表　主要国の大豆需給見通し（2023年９月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国　名		2021/22年度	22/23年度（推計値）	23/24年度（８月予測）	23/24年度（９月予測）	23/24年度 前年度比（増減率）
米国						
	期首在庫	6.99	7.47	7.08	6.81	▲ 8.8%
	生産量	121.53	116.38	114.45	112.84	▲ 3.0%
	輸入量	0.43	0.82	0.82	0.82	0.0%
	消費量	59.98	60.42	62.60	62.32	3.1%
	輸出量	58.57	54.16	49.67	48.72	▲ 10.0%
	期末在庫	7.47	6.81	6.67	5.99	▲ 12.0%
ブラジル						
	期首在庫	29.58	27.60	32.95	31.95	15.8%
	生産量	130.50	156.00	163.00	163.00	4.5%
	輸入量	0.54	0.15	0.45	0.45	200.0%
	消費量	50.71	53.00	55.75	55.75	5.2%
	輸出量	79.06	95.00	96.50	97.00	2.1%
	期末在庫	27.60	31.95	40.20	38.70	21.1%
アルゼンチン						
	期首在庫	25.06	23.90	17.70	17.60	▲ 26.4%
	生産量	43.90	25.00	48.00	48.00	92.0%
	輸入量	3.84	9.20	5.70	5.70	▲ 38.0%
	消費量	38.83	30.25	36.25	34.50	14.0%
	輸出量	2.86	4.00	4.60	4.60	15.0%
	期末在庫	23.90	17.60	23.85	24.95	41.8%
中国						
	期首在庫	30.86	30.32	36.77	37.80	24.7%
	生産量	16.40	20.28	20.50	20.50	1.1%
	輸入量	91.56	102.00	99.00	100.00	▲ 2.0%
	消費量	87.90	93.00	95.00	96.00	3.2%
	輸出量	0.10	0.10	0.10	0.10	0.0%
	期末在庫	30.32	37.80	38.17	39.20	3.7%
世界計						
	期首在庫	100.25	99.09	103.09	102.99	3.9%
	生産量	360.14	370.11	402.79	401.33	8.4%
	輸入量	156.59	167.27	166.25	165.97	▲ 0.8%
	消費量	314.45	311.72	329.53	327.74	5.1%
	輸出量	153.89	170.08	168.77	168.42	▲ 1.0%
	期末在庫	99.09	102.99	119.40	119.25	15.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注１：各国の穀物年度　米国：９月～翌８月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌９月。
注２：消費量は搾油仕向量である。

が、これに続く米国は、２カ月連続での単収の引き下げ（１エーカー当たり50.9ブッシェルから同50.1ブッシェル）により161万トン下方修正されたことが影響した。

輸入量は、世界全体で１億6597万トン（同0.8%減）と前月から28万トン下方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は前月から100万トン上方修正された。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で３億2774万トン（同5.1％増）と前月から179万トン下方修正された。このうち、最大の消費国である中国は輸入量と同じく前月から100万トン上方修正された。

輸出量は、世界全体で１億6842万トン（同1.0%減）と前月から35万トン下方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルは前月から50万トン上方修正されたが、これに続く米国は各国での需要緩和などを背景に95万トン下方修正された。

この結果、期末在庫は1億1925万トン（同15.8%増）と前月から15万トン下方修正された。

中国農業農村部が同日に公表した23/24年度の同国内の大豆需給見通しによると、生産量はUSDA予測値を上回る2146万トンと変わらないものの、輸入量（9422万トン）は前月から303万トン上方修正された。これは、搾油向け消費量（9725万トン）が前月から278万トン上方修正されたことを反映したものとみられる。ただし、輸入量は引き続きUSDA予測値を下回っており、大豆の国際相場に影響する同国の需給動向にも関心が集まっている。

（調査情報部　横田　徹）

米　国

作付面積の拡大により、米国の生産量はさらに増加見込み

USDA/WAOBは同日、2023/24年度（９月～翌８月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

生産量は、151億3400万ブッシェル（３億8442万トン(注1)、前年度比10.2%増）と前月から2300万ブッシェル（58万4000トン）上方修正され、16/17年度に次ぐ過去２番目の生産量が見込まれている。

消費量は、123億4000万ブッシェル（３億1345万トン、同2.6%増）とわずかに増加する見込みで、前月から据え置かれた。用途別では、前年度から特に飼料向けの数量がやや増加すると見込まれている。

輸出量は、20億5000万ブッシェル（5207万トン、同23.1％増）と前年度から大幅に増加する見込みで、前月から据え置かれた。

期末在庫は、22億2100万ブッシェル（5642万トン、同53.0%増）と前年度から大幅に増加する見込みで、前月から1900万ブッシェル（48万トン）上方修正された。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、15.4%（同4.8ポイント増）と前月から0.1ポイント増加し、昨年を上回る水準が予測されている。

生産者平均販売価格は、１ブッシェル当たり4.90米ドル（738円：１米ドル＝150.58円(注2)。１キログラム当たり29.0円、同25.2%安）と前年度からは大幅に下落すると見込まれている。

（注１）１ブッシェルを約25.401キログラム、１エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。

（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年９月末TTS相場。

表　米国のトウモロコシの需給見通し（2023年９月12日米国農務省公表）

区　分	ー単位ー	2021/22年度	22/23年度（推計値）	23/24年度			前年度比（増減率）
				（８月予測）	（９月予測）	参考（換算値）	
作付面積	（百万エーカー）	93.3	88.6	94.1	94.9	38.41（百万ヘクタール）	7.1%
収穫面積	（百万エーカー）	85.3	79.2	86.3	87.1	35.25（百万ヘクタール）	10.0%
単収	（ブッシェル/エーカー）	176.7	173.3	175.1	173.8	10.91（トン/ヘクタール）	0.3%
期首在庫	（百万ブッシェル）	1,235	1,377	1,457	1,452	36.88（百万トン）	5.4%
生産量	（百万ブッシェル）	15,074	13,730	15,111	15,134	384.42（百万トン）	10.2%
輸入量	（百万ブッシェル）	24	40	25	25	0.64（百万トン）	▲37.5%
総供給量	（百万ブッシェル）	16,333	15,147	16,592	16,611	421.94（百万トン）	9.7%
国内消費量	（百万ブッシェル）	12,483	12,030	12,340	12,340	313.45（百万トン）	2.6%
飼料など向け	（百万ブッシェル）	5,726	5,425	5,625	5,625	142.88（百万トン）	3.7%
食品・種子・その他工業向け	（百万ブッシェル）	6,758	6,605	6,715	6,715	170.57（百万トン）	1.7%
うちエタノール向け	（百万ブッシェル）	5,320	5,195	5,300	5,300	134.63（百万トン）	2.0%
輸出量	（百万ブッシェル）	2,472	1,665	2,050	2,050	52.07（百万トン）	23.1%
総消費量	（百万ブッシェル）	14,956	13,695	14,390	14,390	365.52（百万トン）	5.1%
期末在庫	（百万ブッシェル）	1,377	1,452	2,202	2,221	56.42（百万トン）	53.0%
期末在庫率	（%）	9.2	10.6	15.3	15.4		4.8 ポイント増
生産者平均販売価格	（米ドル/ブッシェル）	6.00	6.55	4.90	4.90	29.0（円/kg）	▲25.2%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注１：年度は９月～翌８月。
注２：１ブッシェルは約25.401キログラム、１エーカーは約0.4047ヘクタール。

（調査情報部　高田　勇一）

ブラジル

22/23年度トウモロコシ、大豆生産量ともこれまでの記録を更新する見込み

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は９月６日、2022/23年度第12回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した（表、図１、２）。この調査は、春植えの夏期作物（大豆、第１期作トウモロコシなど）や秋植えの冬期作物（第２期作･第３期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測を毎月公表するものである。

トウモロコシ生産量は上方修正され１億3000万トン台に達する見込み

2022/23年度のトウモロコシ生産量は、前回予測より190万4300トン上方修正され、１億3186万5900トン（前年度比16.6%増）と前年度を大幅に上回り、CONABが統計を取り始めて以来、最大となった21/22年度の生産量１億1313万400トンを更新すると見込まれている。生産量は３月の公表から７カ月連続で上方修正され、合計812万トンの上乗せとなった。

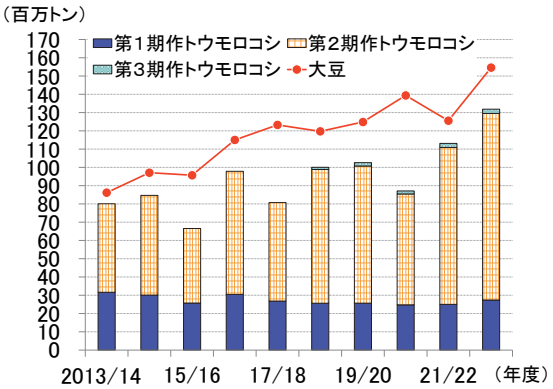
全生産量の２割強を占める第１期作の生産量は、前回予測と変更なく2737万3200トン（同9.4%増）と前年度をかなりの程度上回ると見込まれている。これは、作付面積が

表　2022/23年度の主要穀物等の生産予測

	作付面積（千ha）				単収（トン/ha）				生産量（千トン）			
	2021/22年度	22/23年度			21/22年度	22/23年度			21/22年度	22/23年度		
		（8月予測）	（9月予測）	前年度比（増減率）		（8月予測）	（9月予測）	前年度比（増減率）		（8月予測）	（9月予測）	前年度比（増減率）
穀物合計	74,572.9	78,327.8	78,503.3	5.3%	3.7	4.1	4.1	12.4%	272,641	320,058.5	322,752.8	18.4%
トウモロコシ	21,580.6	22,196.0	22,267.4	3.2%	5.2	5.9	5.9	13.0%	113,130.4	129,961.6	131,865.9	16.6%
第１期作	4,549.2	4,444.0	4,444.0	▲ 2.3%	5.5	6.2	6.2	12.0%	25,026.0	27,373.2	27,373.2	9.4%
第２期作	16,369.3	17,108.2	17,179.6	5.0%	5.2	5.9	5.9	13.3%	85,892.4	100,183.6	102,164.5	18.9%
第３期作	662.1	643.8	643.8	▲ 2.8%	3.3	3.7	3.6	8.3%	2,211.9	2,404.8	2,328.5	5.3%
大豆	41,492.0	44,072.9	44,075.6	6.2%	3.0	3.5	3.5	15.9%	125,549.8	154,603.4	154,617.4	23.2%

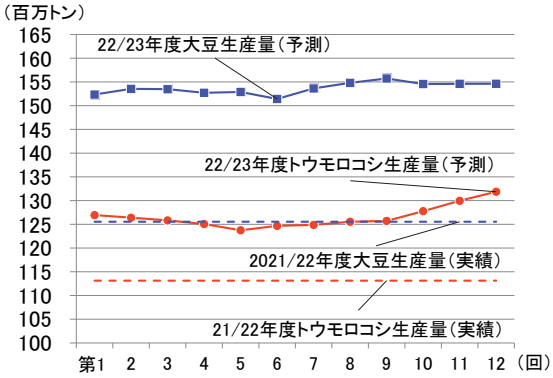
資料：CONAB
注１：2023年９月６日公表データ。
注２：第１作トウモロコシは、例年、９月ごろから南部より順次播種され、翌５月ごろまでに収穫をほぼ終える。
注３：第２作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で１～３月にかけて播種が行われ、６～９月に収穫される。
注４：第３作トウモロコシは、主に北部と北東部で５～６月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。
注５：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌５月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図１　トウモロコシと大豆の生産量の推移



資料：CONAB
注１：2023年９月６日公表データ。
注２：2022/23年度は予測値。

図２　2022/23年度の生産予測の推移



資料：CONAB
注：生産予測の第１回は10月公表、以降毎月更新。

同2.3%減となったものの、ほとんどの地域で天候に恵まれ、単収が同12.0%増と前年度をかなり大きく上回ったためである。

また、全体の４分の３強を占める第２期作は、前回予測より198万900トン上方修正され、１億216万4500トン（同18.9%増）と前年度を大幅に上回ると見込まれている。これは、多くの地域で播種（はしゅ）の遅れが見られたものの、天候に恵まれ生育に適した降水があったためである。なお、第２期作の収穫作業は、作付面積の89.2%で終了しており、前年同期と比べて９ポイント程度遅れている。

地域別に見ると、最大の生産州である中西部マットグロッソ州は、天候に恵まれたことなどから単収が１ヘクタール当たり6.9トンと最大となり、生産量が前年度を大幅に上回った。また、これに次ぐ南部パラナ州では、暴風や病害虫の被害が見られたものの、暖冬のため降霜よる大きな被害も見られず、生産量が前年度をかなりの程度上回った。

同じく全生産量の２%程度を占める第３期作は、前回予測より７万6300トン下方修正され、232万8500トン（同5.3%増）と前年度をやや上回ると見込まれている。最大の生産州である北東部バイーア州では、一部のかんがい地域で収穫が始まった。同州では、

直近２カ月間、降雨不足となっており、これに加え害虫（ヨコバイ）の発生拡大が下方修正の要因となっている。

参考１　ブラジルのトウモロコシ需給動向

（単位：千トン）

年度	2019/20	20/21	21/22	22/23	前年度比（増減率）
期首在庫量	13,186.6	15,312.1	13,515.3	8,095.9	▲ 40.1%
生産量	102,586.4	87,096.8	113,130.4	131,865.9	16.6%
輸入量	1,453.4	3,090.7	2,615.1	1,900.0	▲ 27.3%
供給量	117,226.4	105,499.6	129,260.8	141,861.8	9.7%
消費量	67,021.4	71,168.6	74,534.6	79,597.9	6.8%
輸出量	34,892.9	20,815.7	46,630.3	50,000.0	7.2%
期末在庫量	15,312.1	13,515.3	8,095.9	12,263.9	51.5%

資料：CONAB
注：2023年９月６日公表データ。

22/23年度の大豆輸出量は前年度を大幅に上回る見込み

2022/23年度の大豆生産量は、１億5461万7400トン（前年度比23.2%増）と前年度を大幅に上回り、CONABが統計を取り始めて以来、最大となった20/21年度（１億3938万5300トン）の記録を10.9%上回ると見込まれている。これは、南部リオグランデドスル州を除くほとんどの州が天候に恵まれたことで、作付面積、単収とも前年度を上回ると見込まれるためである。特にマトピバ地域やマットグロッソ州で記録的な高水準の単収となった。

需給動向を見ると、22/23年度の大豆輸出量は23年１～８月の輸出実績を踏まえ前回より130万9000トン上方修正され、9694万9000トン（同23.1%増）となった。一方、期末在庫は129万5000トン下方修正され、587万3900トン（同23.9%増）と見込まれている。

参考２　ブラジルの大豆需給動向

（単位：千トン）

年度	2020/21	21/22	22/23	前年度比（増減率）
期首在庫量	4,220.8	8,822.2	4,739.6	▲ 46.3%
生産量	139,385.3	125,549.8	154,617.4	23.2%
輸入量	863.7	419.2	200.0	▲ 52.3%
種子/その他	3,574.7	3,560.5	3,921.1	10.1%
輸出量	86,109.8	78,730.1	96,949.0	23.1%
加工量	45,963.0	47,761.0	52,813.0	10.6%
期末在庫量	8,822.2	4,739.6	5,873.9	23.9%

資料：CONAB
注：2023年９月６日公表データ。

（調査情報部　井田　俊二）

中　国

23/24年度のトウモロコシおよび大豆の需給見通しを更新

23/24年度トウモロコシ生産量、引き続き過去最高見込み

中国農業農村部は９月12日、最新の「中国の農産物需給状況分析」を公表した。このうち、2023/24年度（10月～翌９月）のトウモロコシの需給見通しは次の通りである（表１）。

生産量は作付面積の上方修正（40万ヘクタール）を受けて、引き続き過去最高の２億8494万トン（前年度比2.8％増、前月から260万トン上方修正）と見込まれている。

輸入量は前月と同じく1750万トン（同5.4％減）に据え置かれたが、記録的な輸入量となった21/22年度に比べ２割の減少となる。

消費量は前月から200万トン上方修正の２億9500万トン（同1.5％増）と見込まれ、引き続き消費の６割強を占める飼料向けがけん引している。

この結果、23/24年度のトウモロコシの総供給量と総消費量の差は743万トン（同43.4％増）のプラスと見込まれている。

また、同年度の国内トウモロコシ産地平均卸売価格については、前月と同じく１トン当たり2400 ～ 2600元（４万9824円～５万3976円：１元＝20.76円(注)）に据え置かれたが、前年度並みの高い水準と見込まれている。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年９月末TTS相場。

表１　中国のトウモロコシ需給見通し（2023年９月12日中国農業農村部公表）

区　分	－単位－	2021/22年度	22/23年度（推計値）	23/24年度（８月予測）	23/24年度（９月予測）	23/24年度 前年度比（増減率）
作付面積	（千ヘクタール）	43,324	43,070	43,470	43,870	1.9%
収穫面積	（千ヘクタール）	43,324	43,070	43,470	43,870	1.9%
単収	（キログラム/ヘクタール）	6,291	6,436	6,495	6,495	0.9%
生産量	（万トン）	27,255	27,720	28,234	28,494	2.8%
輸入量	（万トン）	2,189	1,850	1,750	1,750	▲ 5.4%
総供給量（生産量＋輸入量）	（万トン）	29,444	29,570	29,984	30,244	2.3%
消費量	（万トン）	28,770	29,051	29,300	29,500	1.5%
食用向け	（万トン）	965	980	991	991	1.1%
飼料向け	（万トン）	18,600	18,800	18,900	19,100	1.6%
工業向け	（万トン）	8,000	8,100	8,238	8,238	1.7%
種子向け	（万トン）	195	191	193	193	1.0%
その他向け	（万トン）	1,010	980	978	978	▲ 0.2%
輸出量	（万トン）	0	1	1	1	－
総消費量（消費量＋輸出量）	（万トン）	28,770	29,052	29,301	29,501	1.5%
差引数量（総供給量－総消費量）	（万トン）	674	518	683	743	43.4%

資料：中国農業農村部
注：年度は10月～翌９月。

23/24年度の大豆輸入量を上方修正、過去２番目の水準に

2023/24年度最初の大豆の需給見通しは次の通りである（表２）。

生産量は、作付面積および単収に変更がなかったことで前月と同じく2146万トン（前年度比5.8%増）に据え置かれた。

輸入量は前月から303万トン上方修正の9725万トン（同2.6%減）が見込まれ、記録的な輸入量となった22/23年度（9986万トン）に次ぐ水準となる。

消費量は前月から278万トン上方修正の１億1692万トン（同1.6%増）が見込まれ、引き続き消費の８割強を占める搾油向けがけん引している。

この結果、23/24年度の大豆の総供給量と総消費量の差は164万トン（同67.1%減）のプラスと見込まれている。

また、同年度の国内の大豆平均卸売価格については、１トン当たり5600～5800元（11万6256円～12万408円）に据え置かれ、前年度より下がるものの引き続き高い水準と見込まれている。

表２　中国の大豆需給見通し（2023年９月12日中国農業農村部公表）

区　分	－単位－	2021/22年度	22/23年度	23/24年度		
			（推計値）	（８月予測）	（９月予測）	前年度比（増減率）
作付面積	（千ヘクタール）	8,400	10,243	10,443	10,443	2.0%
収穫面積	（千ヘクタール）	8,400	10,243	10,443	10,443	2.0%
単収	（キログラム/ヘクタール）	1,952	1,980	2,055	2,055	3.8%
生産量	（万トン）	1,640	2,029	2,146	2,146	5.8%
輸入量	（万トン）	9,160	9,986	9,422	9,725	▲ 2.6%
総供給量（生産量＋輸入量）	（万トン）	10,800	12,015	11,568	11,871	▲ 1.2%
消費量	（万トン）	10,797	11,507	11,414	11,692	1.6%
搾油向け	（万トン）	9,054	9,685	9,500	9,778	1.0%
食用向け	（万トン）	1,355	1,432	1,500	1,500	4.7%
種子向け	（万トン）	88	90	84	84	▲ 6.7%
その他向け	（万トン）	300	300	330	330	10.0%
輸出量	（万トン）	10	10	15	15	50.0%
総消費量（消費量＋輸出量）	（万トン）	10,807	11,517	11,429	11,707	1.6%
差引数量（総供給量－総消費量）	（万トン）	▲ 7	498	139	164	▲ 67.1%

資料：中国農業農村部
注：年度は10月～翌９月。

（調査情報部　横田　徹）